

活動報告書（千葉県君津1）

報告者氏名：浜崎和音

所属：千葉県立君津特別支援学校

記録日：2013年2月15日

【対象群の情報】

・学年

小学部重複学級4年男児1名、5年男児1名、6年男児1名、6年女児2名 計5名

・障害名

知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、てんかん、呼吸器機能障害など

・障害と困難の内容

5名のうち4名が医療的ケアの対象児である。体温調節をすることが難しい児童が多く、衣類の調節や保温等の配慮が必要である。体調が優れない時は長時間車いすに座っていることが困難である。そのため、特に冬場は教室を移動しての活動が難しい。

【活動目的】

・当初の目的

対象群の児童の中には、体温調節が難しかったり体調が万全ではなかったりすることがあり、体育館など教室を移動しての行事に参加することが難しい児童がいる。そこで、iPadを使って行事の様子を動画撮影したり中継したりし、参加できない児童も行事の雰囲気を感じ、参加している気分になれるような支援をしていくことを目的とした。

・実施期間

10月12日（金）、11月1日（木）、12月21日（金）

・実施者

浜崎和音（特別支援学校教諭）、他職員2名

・実施者と対象児の関係

学級の担当教員

【活動内容と対象群の変化】

・対象群の事前の状況

冬場は特に集会や行事など体育館で行なう活動に参加することができず、参加したクラスに話を聞くようにしていたが、話だけでは内容をイメージしたり理解したりすることが難しい様子であった。行事の事後学習も写真を見るのが主であったため、視覚の弱い児童は内容をイメージすることが難しかった。

・活動の具体的内容

カメラアプリの動画機能を利用して集会や校外学習先の様子を動画撮影し、参加できなかった児童と見るようにした。また、2学期終業式の日には式の様子を FaceTime の機能を使って iPad 2 台で教室と体育館の中継をした。なお、教室の iPad は 50 インチのプラズマ TV に接続し、大画面で見られるようにした。また、中継のためにモバイルルーター（教室）とスマートフォンのテザリング（体育館）を使用した。

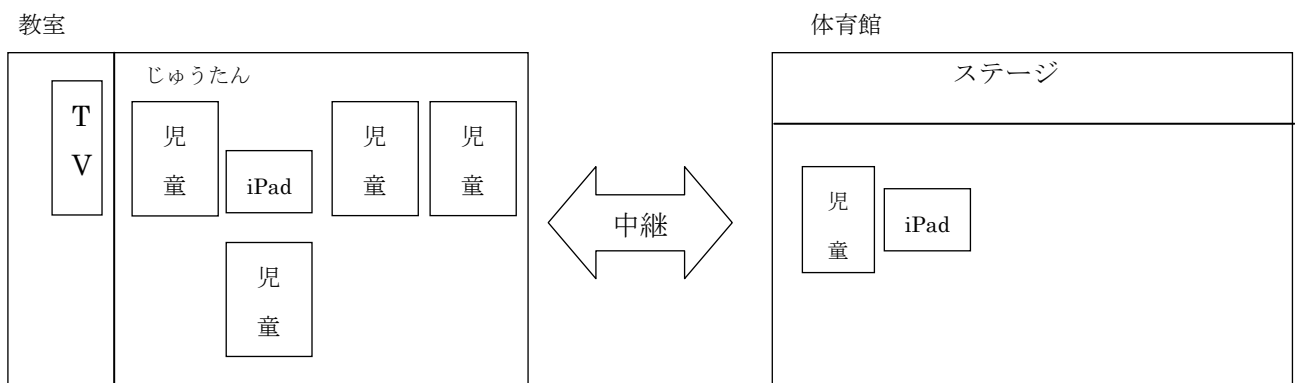


図1 中継の様子

・対象群の事後の変化

iPad で動画を撮影したことで、ビデオカメラより大きな画面で簡単に動画を見ることができ、画面の方に顔を向けてよく動画を見ている様子が見られた。視覚の弱い児童も、動画から流れる音声をよく聞いていた。また、終業式の中継を行なうことで、体温調節が難しい児童も教室の暖かい環境の中で式の様子を知ることができ、その後の活動へも体調を崩すことなく参加することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

写真や話だけでは伝えきれなかった行事の様子も、iPad の動画機能を使用することで実際の様子をそのまま伝えることができた。行事に参加できなかった児童は視覚の弱い児童だったが、iPad の方へ視線や顔を向けて流れてくる人の声やピアノの音色などをよく聞いていて、行事の雰囲気を感じたり内容を理解したりすることができたように感じた。また、児童に話しかけるように動画を撮影すると、児童もこちらの言葉かけに応えるようにまばたきや表情で反応を示す様子が見られたので、児童に行事に参加している気持ちになってもらえたのではないかと考える。

活動報告書（千葉県君津2）

報告者氏名：黒川杏樹

所属：千葉県立君津特別支援学校

報告日：2013年2月15日

【対象生徒の情報】

・学年

中学部重複学級3年女子

・障害名

知的障害、聴覚障害、肢体不自由、上肢形成不全

・障害と困難の内容

他者との意思の疎通に困難があり、快不快の表情で意思を伝えることが多い。ものの選択の場面では具体物を提示すると、特に気に入っているもの（自分の水筒、給食、鏡など）に対して近づいて注視することで選ぶことができるが、かかわる機会の少ない相手には本人の選択は伝わりづらい。聴覚に障害があり、両耳とも補聴器を使用しているが言葉かけの手だてに対しては反応は見えづらい。

【活動目的】

・当初のねらい

意思の表出、ものの選択ができるようになることをねらった。イラストのような抽象的なものの選択肢では選ぶことが難しく、その都度具体物の提示をしないでも選択ができると良いと考えた。そこで、iPadで撮影した写真の提示をして、自分で写真に触れることで選択するという手順に取り組み、繰り返し行うことでものの選択の幅もひろげていきたいと考えた。アプリはiWorkNote!を利用した。

・実施期間

2012年7月から2013年2月まで

○身体の動きに関する自立活動の時間の始めに、車いすとウォーカーのどちらかを選択する。

○水分補給の際に、水筒と紙パックの飲み物のどちらかを選択する。



・実施者

黒川杏樹（特別支援学校教諭）

・実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

水分が飲みたいときには自分の鞆の前までずり這いで近づいて待ち、誰かがその様子に気付いて水筒ないし紙パックの飲み物を出してくれるのを待つようにしていた。ウォーカーでの歩行が好きで乗ったときには笑顔を見せていたが、自分からウォーカーに乗りたいという意思の表出はこれまで見られなかった。習慣化しているウォーカーに乗る時間帯や、トイレに行くときには選択の手だてが立てにくく教師の都合で活動を決められることが多かった。

・活動の具体的内容

iWorkNote!のアプリを利用した。水筒、車いす、ウォーカーなどの写真を撮影し、一つの画面に二枚の写真を提示してどちらかものを選択できるようにした。水筒が数種類あったり選択肢を増やしたりするときにも写真で撮ることで提示でき、どちらかの画面に触れると触れた画面が拡大表示されることで選択した実感が得やすいと考えた。

教師が手を添えて写真を選択し、選択した活動に取り組むようにした。(水筒→水筒に入った水分を飲む、ウォーカー→ウォーカーに乗る、トイレ→トイレに行く、給食→エプロンなど給食の準備をする)

・対象生徒の事後の変化

iPad を提示すると注目する回数が増え、視線を向けている時間が伸びてきた。11月頃には教師と一緒にウォーカーの写真に触れると、ウォーカーに乗るためのじゅうたんのスペースに自分から移動するようになり、写真の選択とウォーカーに乗るという活動が結びついたと考えられる。給食の写真選択から給食用の座位保持椅子近くまで移動することもできるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

初めて iPad に触れた頃に比べて、提示したときの様子が変わり注目しやすくなった。習慣的に取り組んだことで、各活動への取りかかきのきっかけとなり意識付けに繋がったと考えられる。それらが歩行に対する意欲やトイレでの排せつ成功に繋がったと思う。

ねらいとしていた意思の表出や活動の選択としては、自分から二つの内どちらかの活動を選ぶまでには至らなかった。今後もより選択しやすい工夫を重ね、継続して取り組むことで意思表示のツールとして活用できるのではないかと考える。

・エビデンス (具体的数値など)

取り組みの中で自分から iPad に触れることができたのは計3回。手元に視線が向けられていたため選択できたと考える。(水筒の選択2回、ウォーカーの選択1回)

・その他のエピソード (画像などを含めて)

(生徒の様子)



教師と一緒に
写真を確認



どちらかの
写真に触れる



写真が拡大
音声が出力



選択した物を
実際に確認



選択したウオ
ーカーに乗る

活動報告書（千葉県君津3）

報告者氏名：黒川杏樹

所属：千葉県立君津特別支援学校

報告日：2013年2月15日

【対象群の情報】

- ・ 学年

中学部重複学級1、2、3年生 9名

- ・ 障害名

知的障害、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害など

- ・ 障害と困難の内容

重複障害の生徒が在籍し、コミュニケーション面では「食べる、ありがとう、トイレ」など不明瞭ながらも言葉を話せる生徒が一名、その他の生徒は声が出せる生徒や気管切開により発声ができない生徒で構成されている。その他の表出に関しては、教師の問いかけに対して表情や視線の向きで気持ちを表出する生徒など、様々な実態の生徒が所属している。身体面では、ほとんどの生徒が脳性まひや上肢の形成不全により動かせる身体の部位は限られる。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい

学部行事である発表会において、生徒のできることを念頭に置いて活動をすすめた。発表劇の練習に取り組むうえで、iPadに触れることでセリフが再生でき、限られた範囲でも動かせる身体の動きを発表に結びつけることをねらった。アプリはiWorkNote!を利用した。



- ・ 実施期間

2012年12月3日（月）～14日（金） 練習及び発表会当日

- ・ 実施者

黒川杏樹（特別支援学校教諭）、他職員4名

- ・ 実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員と講師

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

これまではBGMに合わせての車いすダンスや、それぞれの鳴らせる楽器を演奏することで発表をしてきた。内容として教師主導のものにならないように意識しつつ、その上でストーリー性のあるものを発表することが、多種多様な生徒の実態から多くの準備と工夫が必要となっていた。練習に取り組む際にも、体力面で配慮が必要である生徒が多く、その都度車いすに乗って練習をすることが困難であった。

・活動の具体的内容

iWorkNote!のアプリを利用した。生徒一人ずつに教師を割り当ててセリフを録音し、BGMとともにアプリで再生するようにした。各ページに一つずつセリフを登録してタッチすると音声再生され、セリフが以降のページに続くように設定した。発表の際には、教師がセリフのページを開いて手元に提示し、生徒の触れられる範囲で手を動かして再生した。音声はiPadからBluetoothの受信機へ飛ばし、体育館のスピーカーから音が出るようにした。

・対象生徒の事後の変化

練習の始めからセリフやBGMの設定されたアプリで取り組むことができ、発表の流れや自分のセリフの順番が理解しやすくなったようだった。iPadを提示されると画面に注目し、手を動かそうと身体に力を入れる様子が見られるようになった。本番では自分たちでセリフやBGMを再生し、車いすダンスの披露とともに予定通りの発表をすることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

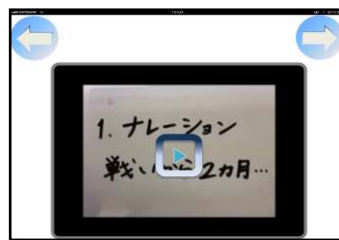
iWorkNote!は音声を録音でき、再生する際にも画面表示を自由に設定することができる。また、BGMもiTunesで音楽データを設定して各ページに登録することができる。そのため、発表に向けての準備がアプリ単体でほぼ済ませることができ、簡素化することができた。また、iPadは全ての生徒が初めて目にし、触れるための意欲が表情や身体の動きから見て取れた。



発表劇の始まりの
BGMを再生する

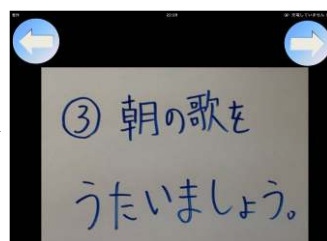
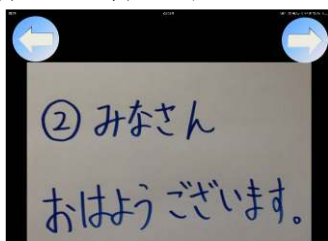
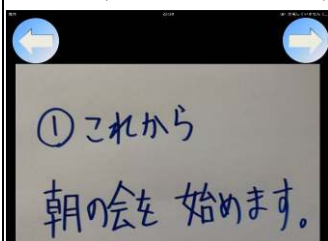


役を演じる生徒が
前に出てiPadに触れる



教師がセリフのページを
表示して操作しやすい位置
に提示する

・その他のエピソード (画像などを含めて)



※朝の会の司会においても本アプリを利用した。
男子生徒→男声
女子生徒→女声

活動報告書（千葉県君津4）

報告者氏名：黒川杏樹

所属：千葉県立君津特別支援学校

報告日：2013年2月15日

【対象生徒の情報】

・学年

中学部重複学級3年女子（Aさん）、中学部重複学級3年男子（Bさん）

・障害名

Aさん：知的障害、聴覚障害、両上肢形成不全、コルネリア・デ・ラング症候群

Bさん：知的障害、視覚障害、気管切開、経管栄養摂取、アイセル病

・障害と困難の内容

Aさん：移動は楽座の姿勢からずり這いのように座ったまま上肢を起こして移動する。24年12月から新しいウォーカーに取り組んで、歩行の練習を行っている。

Bさん：医療的ケアの対象生徒であり、気管切開部からのたんの吸引や生理食塩水の吸入、腹部のガストロボタンからの注入をしている。学校の布団の上では医療用酸素濃縮機、移動のときには酸素ボンベにつなぎ替えて過ごしている。また、睡眠時には酸素濃縮機とともに呼吸器も使用している。

【活動目的】

・当初のねらい

プリインストールされているカメラ(動画・静止画)と写真閲覧アプリを使用して、学校での様子を連絡帳とともに映像で保護者に見てもらうことをねらった。また、家庭での様子(余暇や睡眠時の呼吸器装着や吸引の様子)を無理のない範囲で撮影してもらい、学校での学習課題の設定に役立てたり、修学旅行前に宿泊で必要とする機器や装着の様子を映像で確認したりすることをねらった。

アプリはカメラと写真閲覧のアプリを使用した。



・実施期間

Aさん：2012年12月5日（水）～2013年2月15日（金）の期間中に計3回

Bさん：2012年10月19日（金）～22日（月）

・実施者

黒川杏樹（特別支援学校教諭）

各生徒の保護者(主に母親)

・実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員、保護者

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

A さん：新たに購入したウォーカー(製品名：miniwalk)で歩行の練習を始めた。実際に生徒がウォーカーを使用している様子を、母親が見たのは業者から受け取ったときと学校に持ち込んだときの二回だけであった。以降は連絡帳を通して、担任からその日の歩行距離や本人の様子を伝えるようにしていた。

B さん：宿泊を伴う校外学習は基本的に夕食後に保護者と帰宅し、小学6年生のときの修学旅行では保護者が同伴してホテルに宿泊した。そのため、学校側としては睡眠時にどのような機器を使用し、設置位置や本人と保護者の体勢について把握していなかった。そのため、今回の修学旅行では、睡眠前の服薬や吸引回数、呼吸器などの使用の様子について実際に見せていただきたいと伝えた。

・活動の具体的内容

iPad のカメラ機能と写真閲覧アプリを使用して、歩行の様子や睡眠時の機器を使用している様子などを映像で確認し、担任と保護者で共通理解を図るようにした。実際の映像を見ながら相談し、学校と家庭での様子をより詳しく伝達できるようにした。

・対象生徒の事後の変化

A さん：ウォーカーに乗ることに少しずつ慣れ、初めて乗ったときよりも足の運びが早くなり、体幹をひねることで舵取りができるようになった。iPad で母親に様子を見てもらうと、歩行の様子に安定感が増し、上達とともにこれまで見られなかったクセも見られるようになったとのこと。母親との相談で挙がった操作性をねらって、障害物回避の練習にも取り組むようになり、更に上手に歩けるようになった。

B さん：本人というよりも担任が家庭での様子を確認できたことが、修学旅行の準備に活かされた。ホテルの部屋に持ち込む機器の確認やそれぞれのもつ機能を把握できたことで、当日の安全面や今後の宿泊を伴う校外学習への貴重な引き継ぎ資料となった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

操作はシンプルで、撮影と閲覧が簡単操作でできることはパソコンを使い慣れない保護者にとって扱いやすい。実際の映像を見て確認することで、担任と保護者の相談がより具体的になり、配慮事項や今後の取り組みについても共通のイメージをもって話ができるようになったと考える。また、生徒が活動に意欲的に取り組んでいる様子が保護者や家族にも見てもらえることで、担任にも保護者にも励みになった。



【A さんの様子】

1 2月 1 7日ウォーカーに慣れ、目標物に向かって歩行する様子が見られた。

1 2月 2 0日左右の方向変換をするときの上肢の使い方が身についてきた。

1 月 1 5日左手をアームレストに添えて操作する姿勢が習慣化してきた。

(歩行の癖ととらえて、対策をしていくか保護者と相談した。)